

あさなしい

令和3年6月23日(水) No.9

文責：校長 矢田部 瑞穂

「土っていいね」浅内小の夏始まる

六月三日(木)、今年度も、保全隊の皆様や応援隊の皆様と共に、「花の道」が完成しました！



6月17日(木)、今年度もコメリ浅内店さんの多大なご協力を得て、1～4年生までの学校農園の野菜の苗植えを行いました。子どもたちと一緒に作業をしていたら、2年生が友達同士で「土っていいね。」と語り合っています。調べてみると、土には心身共に癒やされる不思議なパワーがあるようです。自然と仲良しの浅内小の夏が来ました。花や作物への水掛にも愛情が感じられます。これは間違いなく浅小のよさの一つです！

6/3 保全隊・応援隊との植栽活動



土地改良区の皆様、応援隊の皆様のご協力のおかげで、今年も「花の道」ができました。今年も、今野同窓会長の提案でゴッホ・モネ・マティスの絵画のひまわり3種類の種を頂きました。夏が待ち遠しい。

今年は縦割り班で花壇作業！（左から）KKさん・SHさん・TJさん

6/17 コメリの皆様との苗植え



さつまいも・スイカ・トウモロコシ・枝豆・・・収穫の日を思いながら、一年生から四年生までみんなが心を込めて苗を植えました。



仕事を見つけてよく働くKKさん

感謝コーナー

今年も農園の季節になり、忘れてはいけないのが、活動の前の下準備をしてくださっている3名の方々です。平川巖さん(日登実父)大塚剛志さん(峻太郎父)伊藤隆一さん(あさかわファーム)が休日を返上して耕起やマルチシート掛け等を仕上げてくださいました。学校は、皆様のおかげで、子どもたちに様々な体験を提供できます。何年も継続してご協力いただいていることに心より感謝いたします。



6/21 JAの皆様とネギ苗定植

JAあきた白神の皆様が、今年も五年生のネギの活動を支えてくださっています。この日も、ひっぱりくんという機械を操作してのネギ苗の定植まで丁寧に指導くださいました。子どもたちは、今年度もなべっこ会で全校に振る舞ったり、学習発表会で販売したりするために、丹精込めて育ていきます。



上手に機械を操作するISさん

浅小プライド「挑戦」

昨年度の浅小っ子アンケートで、「失敗してもあきらめずに、ねばり強く挑戦している」という項目のみ、過去6年間の中で最も低い数値を示しました。そこで、今年度の子どもたちの合い言葉を「挑戦」とし、学校内外でどんどん挑戦する機会を保障するとともに、特に、校外での活躍を「大海を知る」と銘打って奨励しています。今回は、「大海を知る」ことに挑んでいる子どもたち9人と、「大海を知ることで得たこと」と題して10分程度の座談会を行いました。



「大海を知ることで得たことは何？」

◆まずは、野球部の3人が積極的に挙手した。A「仲間を得た。」Y「協力することの大切さを学んだ。」R「勝ちたいという思いを学んだ。」自分はコーチーだと言うRさんに「レギュラーになれなくても続けられるのはなぜか」と問うと、「途中であきらめたくない。」と。それこそ、Rさんのプライドだ。キャプテンのAさんは、「仲間が自分らしく伸び伸びとプレーできるように、自分は優しいキャプテンでいたい。」と創るチームのイメージをしっかりと思い描いている。女子であることに甘えないYさんは、スポーツテストでも確実に去年を上回る成果を出している。3人の言葉や表情からは、6月初旬に行われた学童軟式野球大会能代市予選で大差で負けたことを確実に次に繋げたいという強い思いを感じた。

◆4校合同チームのソフトボールを頑張っている2人に「どうやって他校の友達と仲間になることができたのか」を聞いてみた。R「分からないことを自分から進んで聞いているうちに、いつの間にか仲間に入れてもらっていた。」S「できないことがあったときに、声を掛け合うことで強い絆が生まれた。」6年生不在のチームを背負う5年Sさんは、今最も大切なことを「健康管理」と言い切った。それは、間違いなく最上級生としての責任感だ。そして、コミュニケーション能力に長けたRさんは「練習が楽しい。」と、何度も語る。先輩たちに愛されていることが伝わる。

◆スポ少に所属する訳ではなく、6年生になって初めて陸上大会に出場した2人に出場を決めたきっかけを聞いてみた。K「3年生くらいの時、テレビでマラソンを見てカッコいいと思い、挑戦することにした。」M「担任の大先生が進めてくれたから一歩踏み出せた。」6年生になっての「挑戦」である。今回のこの挑戦。「両親が褒めてくれたことで自分に自信がもてるようになった」とKさんは語り、Mさんは、「自分にはどこかに不安があったが、この経験で強くなった。」と胸を張った。私は、あの広い能代市陸上競技場で「浅小」というアナウンスを聞いたとき、心の底から嬉しかったし、2人に感謝した。

◆では最後に、今や県外の友達がライバルとなっている2人にピアノを続けてこられた理由を聞いてみた。S「他人をあまり気にしない。自分がやりきったかどうかの方が重要だと思う。」Y「一番頑張る日で3時間練習する。本番で自分を信じていることができるように、辛いときもあきらめないで頑張っている。」わずか10年ほどしか生きていないこの2人の言葉に、自分の弱さを反省する。今後も限界まで続けたいというSさんと、この挑戦が終わったら次は別のことに挑戦したいと話すYさん。2人が兄弟だからこそこの切磋琢磨がここにあると感じた。